

■ 第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加してきました。



パネルディスカッションの様子

今回は「今、社会が科学者に求めること—ソーシャル・ウィッシュ」を題し、10月31日に筑波大学にて開催されました。

農環研は、支援事業活動を紹介するポスター発表を行ったほか、一日を通して行われたプログラムにも参加して、社会が望む科学のあり方についての討論に耳を傾けました。

←<篠崎さん(生物生態機能研究領域)の報告>

会津大学の奥平恭子先生による講演が印象的でした。奥平先生が、震災前からサイエンスカフェなどで講演をされていた経験を生かし、少しでも日常から離れられればと、避難所等でご自身の専門(宇宙科学・惑星実験科学)から「はやぶさ」関連の話題などを提供をして喜んで頂けたというお話に感銘を受けました。また、「科学者がグレーだと判断する事柄にも、市民の皆さんからは白黒を求められることがあり、それが科学的な判断であっても理解が難しいことから不信感につながりそうな事もあった。普段から交流を深めることにより、市民の皆さんと科学者との信頼関係を築いていくことが大切なのは。」というお話が大変参考になりました。

■ 女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウムに参加してきました。

11月1日、2日に筑波大学東京キャンパスで『女性研究者支援に向けた持続可能な取り組みの実現～「モデル的取組」から「研究とライフイベントの両立へ」～』と題した合同シンポジウムが開催され、農環研からは長谷部研究統括主幹をはじめ、3人が参加しました。

このシンポジウムでは、事業に参加している日本全国の研究教育機関から事業担当者が集まり、現在の問題点や効果のあった支援策、機関間の情報交換ネットワークの重要性などについて密度の高い話し合いが行われました。

シンポジウムの詳細は、女性研究者支援公式HPに掲載予定です。



会場の様子

News Letter

12月

シンポジウムに
参加してきました号



2011.12.28